

今度は いつ？ どこ？

命を守る
のは

あなたの

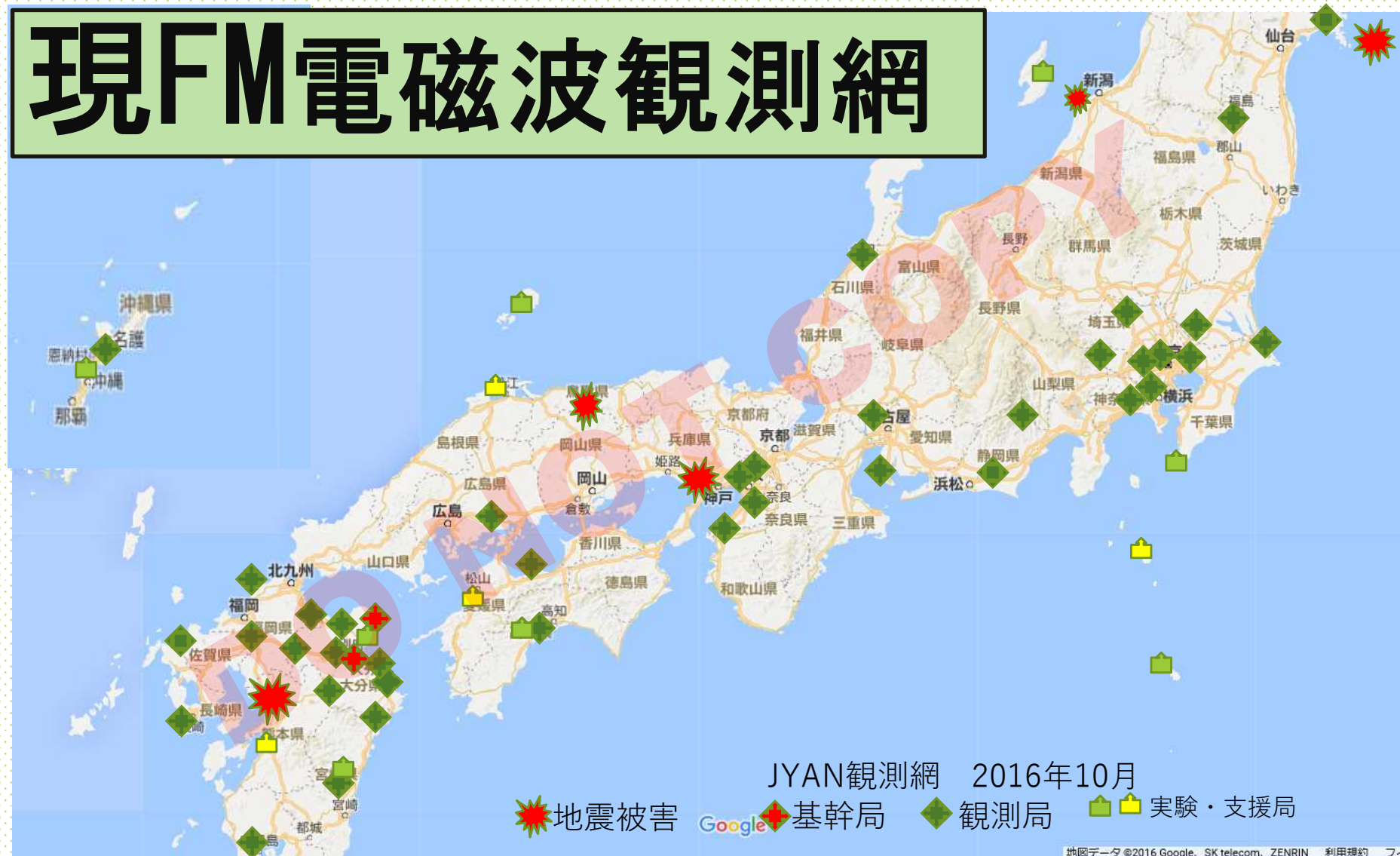
準備
次第

なのです。



東京消防庁広報部

現FM電磁波観測網



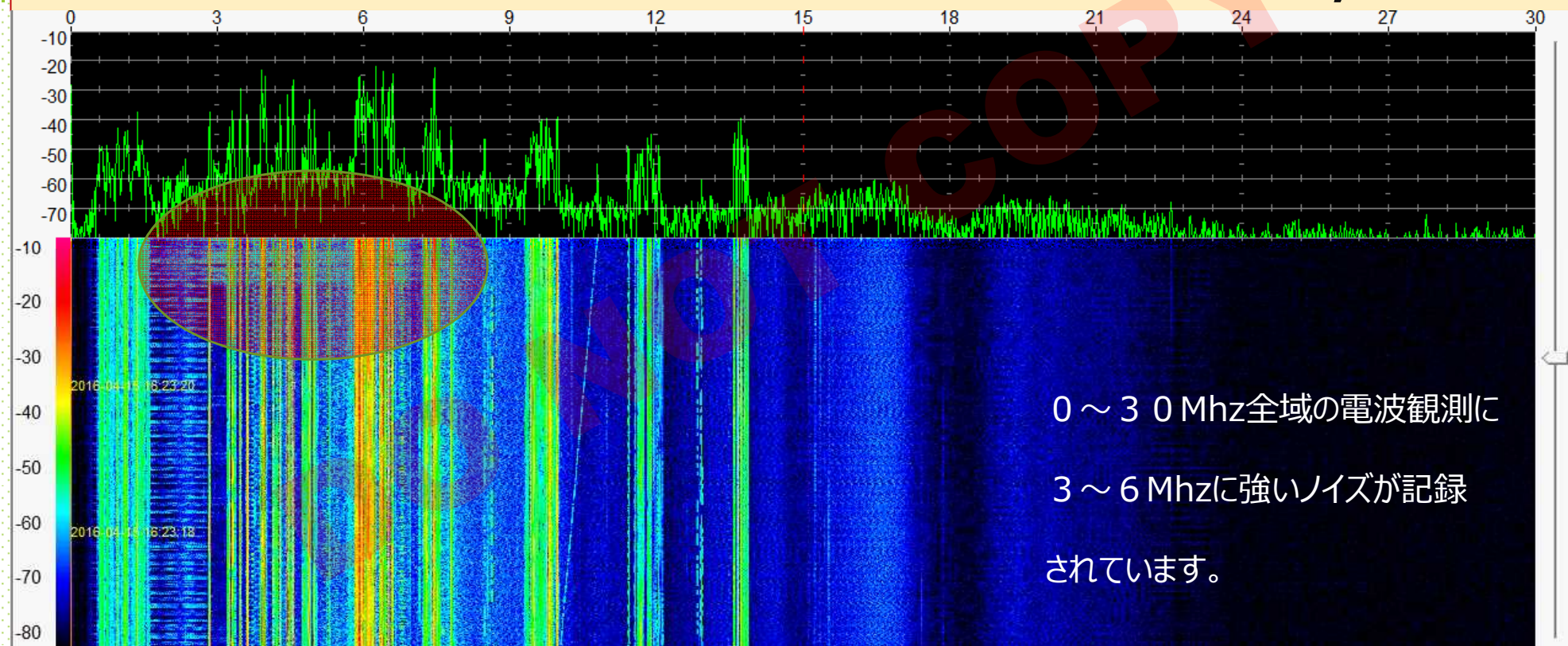
日本は地震火山列島 地震・噴火～命を守るのは 予知情報しかありません！

阪神や東日本、熊本地震も予知できなかった。では、**困る**のです。本当に怖いのは
巨大地震だけではありません。「大噴火」も周囲 50 Kmは火砕流や噴石灰で
死傷者が多数出ます。 安全策は、唯一予知して、逃げるしか、方法が無いのです。

ところが **JYAN研の電磁観測は噴火も有効です！**

地震と噴火は、地殻内での動きがほぼ共通で予測可能です。それに雨量や風等
を加えれば「防災の総合情報センターとして、命の安全に貢献できます！」

熊本地震本震記録4/16/01:25



理論

光と電磁波
は同じ性質
を持っています。

光は、蠟燭
の向こうで、
揺れて見え
ますが、

同じ事が
電磁波でも
電界の揺れ
が起きるので
す。

曲折理論と メカニズム

震源の軌道等で発生した、
電磁エネルギーは、地表、面
に伝わり、貯まって電磁
界層を形成したり空中へ放
射されたりします。

この（電磁界層）は、空気
コンデンサー模様の界層で、
地表では、電磁界の強度が
最も強く現れますが、地上
高が上昇すると（約距離の2
乗に反比例して）急激に弱
くなってしまいます。

これは、（連続的な電磁
誘導作用）電気及び、磁
氣的な引力や斥力等の作用
によって、影響が最も強い
地表では、通過中の電磁波
も電磁界に変化に応じ、屈折
や曲折が起きて、電界の強
さが変化します。

地上 4 m で 4 万が、20 m では 2 千と 1/20 に落下

（電磁界強度の減少グラフ）
高さと、電磁界強度の変化



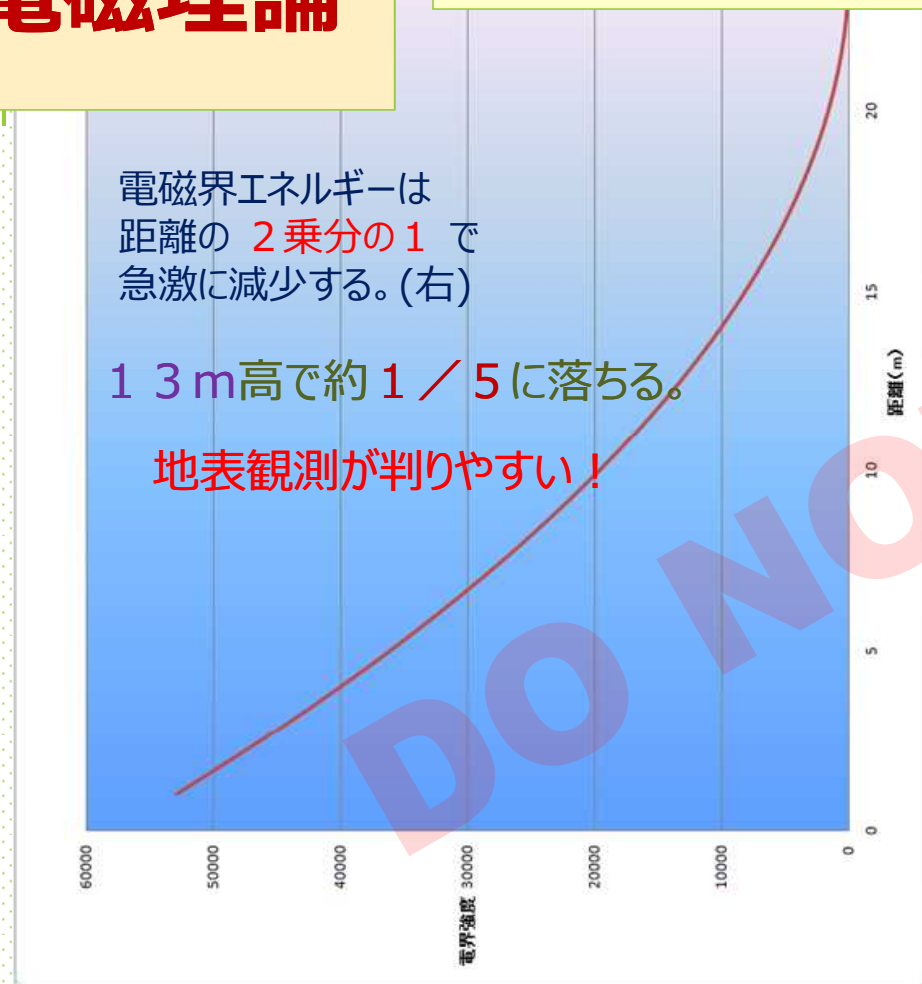
電磁理論

震源や地殻内の変動は
大地か地表直近が良い。

電磁界エネルギーは
距離の 2 乗分の 1 で
急激に減少する。(右)

13m 高で約 $1/5$ に落ちる。

地表観測が判りやすい！



電離層 (D F1 F2層) 約100~300km

スプラディックE層 約80km

電離層 ↑

上層は地上高でKm(電離層図)

下図は空気層でKm(電磁界図)

空気層と電離層

空気密度 ↓

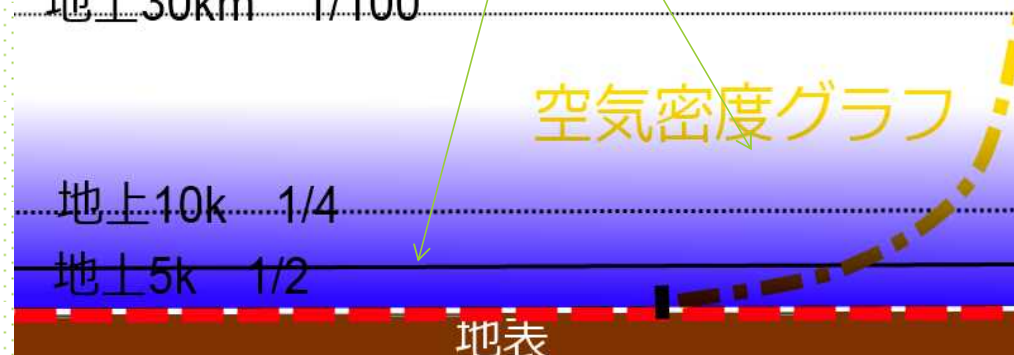
地上30km $1/100$

地上10k $1/4$

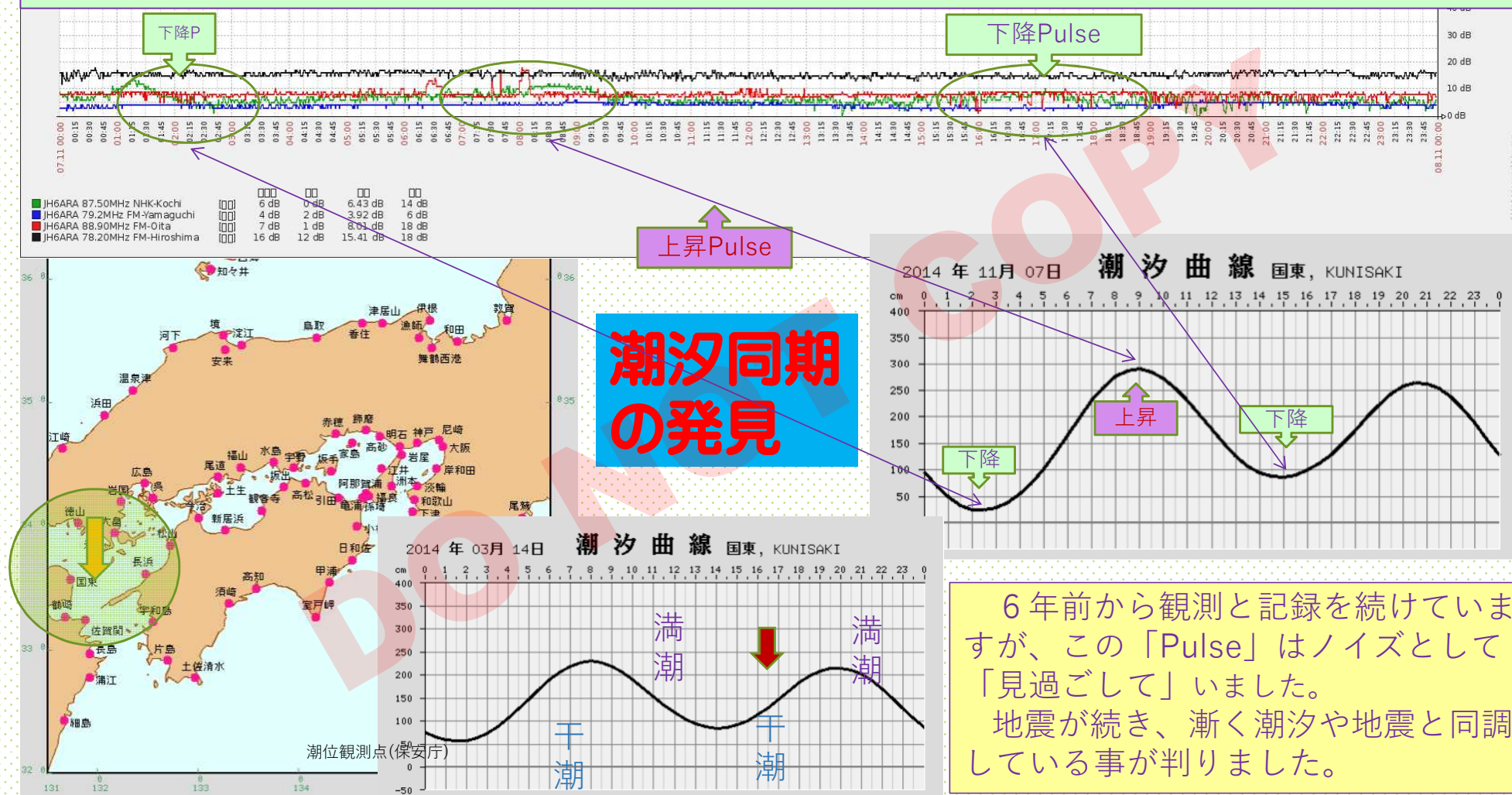
地上5k $1/2$

地表

空気密度グラフ

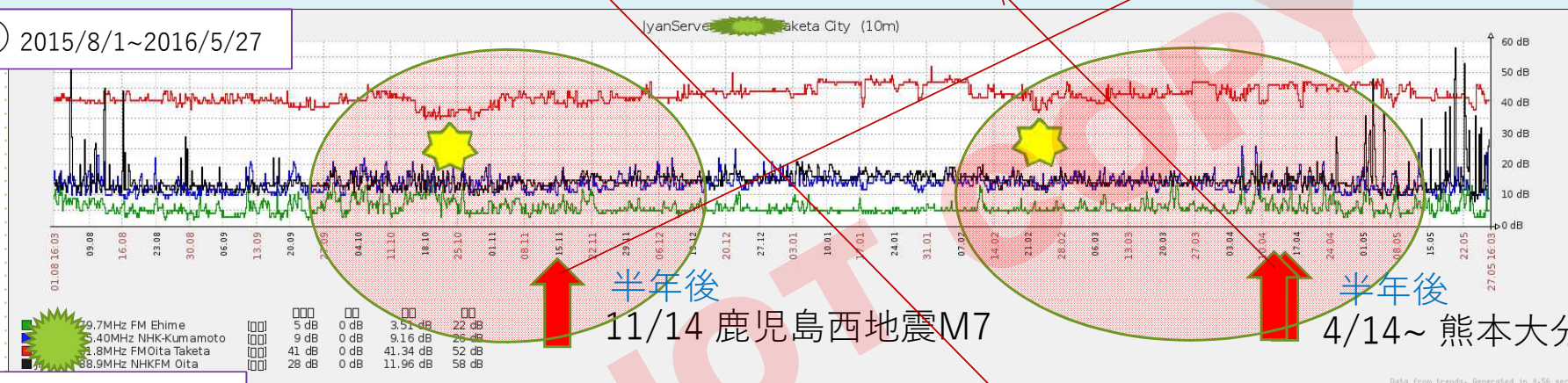


潮汐と電磁異常の照合結果（発見を学会で発表）



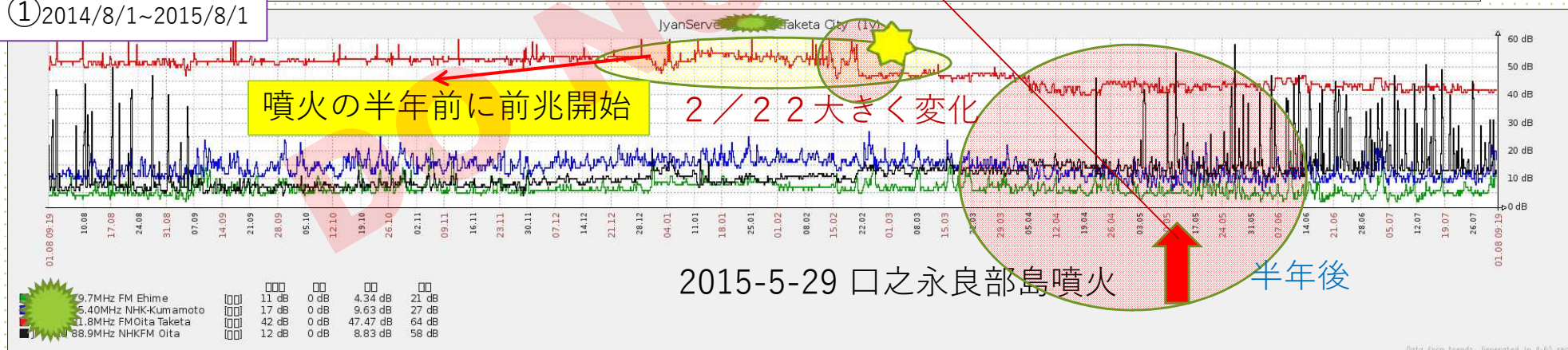
口之永良部島の**噴火**から、半年後に**鹿児島西M7**
 その半年後に**熊本-大分地震M7.3**が発生！ **今度は10月？**

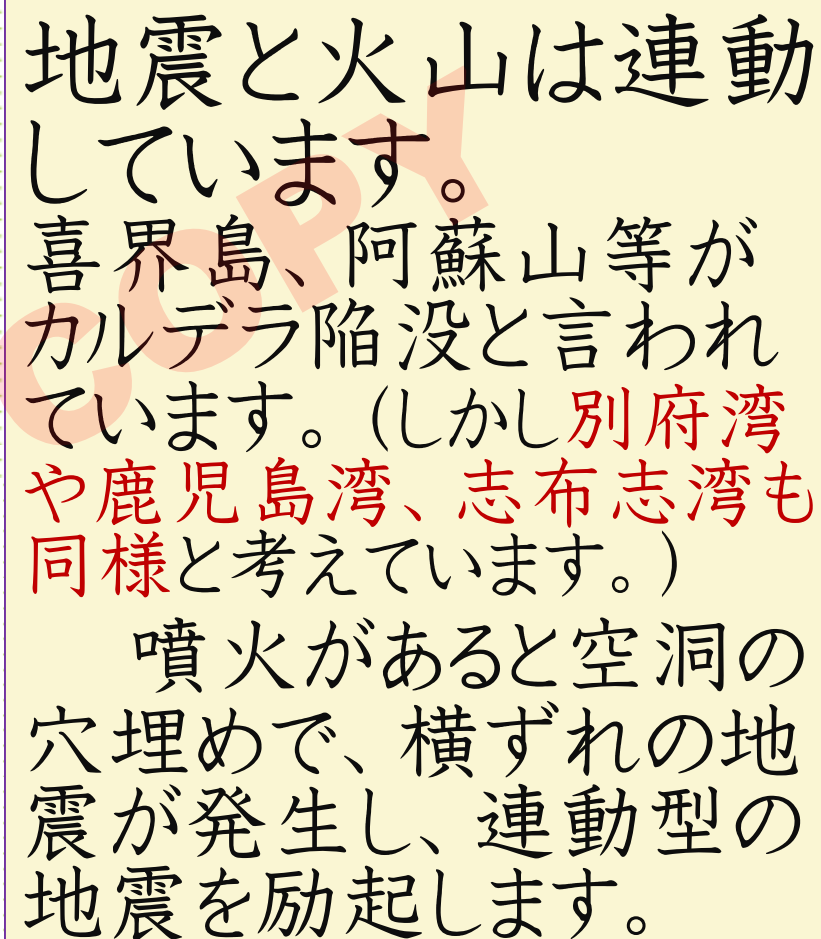
② 2015/8/1~2016/5/27



正解だった

① 2014/8/1~2015/8/1





地震学術 3 学会で10年研修

日本地震学会、日本地震予知学会、日本地球惑星科学連合学会の学会で研修中

地震予知学会発足時に検討委員を勤めました。(17名)

JYAN研究会(地震予知アマチュアネット)と地震予測観測網を主宰しています。

JYAN研究会のHP閲覧者が増え、地震予測の配信希望者が増えています。

研究会の会員 (ML) は約350人で、常時観測しているNet会員は約50局です。



上 地震予知研究センターの
センター長 長尾年泰教授

- 地震予知関係コメンテーター
- 日本地震予知学会の副会長
(東大出身)

私の研究室を見学して、技術の高さに納得、論文共著の申出あり。
日本地震予知学会早川会長からも論文共著の申し出がありました。